

宮城県の景況判断

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概況

生産は概ね横ばい圏内で推移している。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は、一部で上振れしているが、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

この間、企業の景況感、総じて弱めの動きとなっている。

今月のポイント

国内経済情勢は、景気動向指数の基調判断が「悪化」に下方修正されるなど、戦後最長の景気拡大に黄色信号が点灯していますが、県内経済は仙台圏での建設投資や耐久消費財などの個人消費に動きがみられており、実体経済に底堅さをうかがわせています。一方、企業の景況感、特に製造業で海外情勢を背景とした悪化がみられており、今後、米中貿易摩擦の激化などに起因した実体経済への影響に一層の注視が必要です。

(参考) 県内景況判断の推移

	2019年3月	4月	5月
総括判断	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)	震災復興需要の反動などから、回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している (据え置き)
生産	全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している	概ね横ばい圏内で推移している※	概ね横ばい圏内で推移している
個人消費	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている	概ね横ばい圏内の動きとなっている
住宅投資	建替需要の反動などにより基調としては減少している	建替需要の反動などにより基調としては減少している	一部で上振れしているが、建替需要の反動などにより基調としては減少している
公共投資	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している	震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している
雇用情勢	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている	総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている
企業の景況感	(2018年7~9月) 持ち直しの動きが鈍化している	(10~12月) 持ち直しの動きが鈍化している	(2019年1~3月) 総じて弱めの動きとなっている

※「平成27年基準 県鉱工業生産指数改定」に伴う基調判断の改定

注) 下線は前月(回)からの変更箇所

宮城県の経済情勢に関するより詳細な情報については、機関誌「FLAG」および「77R&C会員情報サイト」にて、ご覧になることができます。